



子供たちは大喜び

# 竹林に歓声

## 奈路タケノコ村がオープン

「自然いっぱいの中で、タケノコ狩りはいかがか」四月十三日、市の北部奈路地区で「観光タケノコ狩り」が始まりました。

奈路は白木谷と並ぶ、おいしいタケノコの産地。今までは缶詰用に加工することが多く、値段も安いし、また最近では中国産のタケノコに押され気味。そこで、新鮮でおいしいタケノコを食べてもらい消費拡大に、そして活気のある地域づくりを目指そうと、地元農業青年が中心となって企画。園主は、川村一成さん、長曾我部良親さん、平田修三さん、平田幸一さんの四

人で、面積は約三畧。川村一成さんは「初めての企画で、対応もわかりませんが、今年はお客さんの反応を勉強させてもらいます」と話していました。

開園翌日の日曜日には、高知市などからマイカーで約五十人の家族連れが来園。くわを持って竹林を登り慣れない手つきで掘る人、「黄い子、黄い子だ」とおもしろなタケノコを品定めし、慎重に掘る人などいろいろ。また、苦勞して掘り上げた大物を、大きな声でみんなに披露し満足気な人など、竹林に歓声が響いていました。

# 小さな民具館誕生

## ◆村田晃さん(十市)が手作り◆

十市に住む村田晃さんが、十市小旧木造校舎から出てきた民具を預かり、私有地に小さな展示場を造りました。

今年三月、鉄筋コンクリート三階建てのりっぱな校舎が完成した十市小学校。それによって、長い間親しまれてきた木造校舎が解体されることになり、そのとき、足踏み脱穀機など懐かしい民具が出てきました。新校舎に置くところもないし、始末してしまうには惜しいと、校長先生が悩んでいたところ、「貴重なものだし、私が保管させてもらいましょう」と、村田さんが預かることになりました。しかし、ただ保管するだけではな



手作りの小屋には、懐かしい民具や資料が並んでいる

く、みんなが見学できる場所に展示をしようと考え、私有地に造ったゲートボール場の隣に、手作りの小屋を造り展示場に。

そして、地元の土居寿彦さんから、蚕の繭とり、糸まき、機織り機、水車など貴重な民具も寄付してもらいました。このほか、唐箕、牛ぐわ、馬ぐわ、乳母車、珍しいわらで編んだお櫛の保温器など。また、理科の実験用具や鶴のはく製、生徒の粘土細工などいろいろ展示。

ゲートボールに訪れたお年寄りには、「うーん、昔は使いました」と、懐かしそうに見学していました。

タケノコの重さ計りなど準備中



# 消費者と楽しく交流

## 土曜市が感謝デー

土曜市組合(中村朋子理事長)が四月十六日、「消費者と集う春の感謝デー」を土曜市会場で開き、大勢の市民でにぎわいました。

これは、消費者との輪を広げ、市民により親しまれる土曜市を目指していこうと、今年初めて開かれたもの。

午前十時、市長らがテープカットをした後、まず消費者と組合員との意見交換会。中村理事長が「皆さんの声を参考に、これからもお客さんの身になった運営をしていきたい」とあいさつ。消費者からは「品物は新鮮だし、毎週楽しみにしている」「良い品を、なるべく安く売って欲しい」など、率直

珍しい

# 双子のタケノコ

## ○十市の土居太興さん○



ジャンボな双子のタケノコ

春の味覚タケノコの収穫も盛んな四月十六日、十市の土居太興さんの竹林から、珍しい双子のタケノコが見つかりました。

長さ約六十センチ、重さ八〇とジャンボ。根本から二つに分かれ、まるで、肩を並べて仲よく育った兄弟のようです。

一週間ほど前、双子に気づいた土居さんは、様子を見ていたが、兄弟げんかに勝ったか一方が大きくなり出したので、掘り上げることにしました。土居さんは「処分はまだ考えていません」と、料理してしまうには、ちょっと惜しそうでした。

# 親子で楽しく工作

## ◎大篠小で発明クラブ◎

科学技術週間(四月十五日〜二十一日)の四月二十日、「親子発明工作教室」が大篠小工作室で開かれました。

これは、昨年八月発足した市少年少女発明クラブの活動を、広く知ってもらおうと開かれたもの。まず、六十年度の開講式が行われた後、実習ではクラブ員以外の親子も参加し、工作を楽しみました。

今回は日時計の製作。猪野吉保専任指導員が、その原理を説明し、さっそく子供たちは組み立てます。時計の文字盤となる紙を丸くくり抜き、板に接着。その中心に、影をつくる棒を、ニッパーを使い両側からホルト締めし、台に固定し完了。

早く出来上がった子供たちは、ペランダに出てさっそく実

験。中には、なかなかほかどらな子供もおり、お母さんが手伝う姿も見受けられました。

後からはパン食い競争、宝探し、カラオケ大会、健康相談など、盛りだくさんの催し。消費者と組合員がいつしよに楽しみなながら、交流を深めました。



親子で楽しく日時計作り